

平成27年度 全国学力・学習状況調査
教科に関する調査結果及び考察について

保護者の皆様へ

白河市立白河第五小学校長

平成27年4月21日に実施しました「全国学力・学習状況調査」の教科に関する調査結果及び考察についてお知らせいたします。

この調査は、学校における児童への教育指導や学習状況の改善等に役立てることなどを目的としています。

調査対象は6年生で、国語と算数と理科の3教科の実施となりました。また、理科は4年に一度の実施であり、本年度実施いたしました。

国語と算数の2教科については主に知識に関する「A問題」と、主に知識を活用する力に関する「B問題」を実施しました。

理科は、主として「知識」に関する問題、主として「活用」に関する問題を一体的に問う問題を実施しました。

本校では、教科に関する調査結果とその考察、ならびに指導方法を改善する取組をお知らせし、学校と保護者や地域の方々とともに手を携えて、児童の学力向上や学習環境などの改善に取り組んで参りたいと考えておりますので、ご理解とご協力をお願いします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の一部であるとともに、学校における教育活動の一側面の結果であることをご理解ください。

【本校と全国の平均正答率比較】

教科	全国平均正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
国語A	70.0%		○			
国語B	65.4%	○				
算数A	75.2%	○				
算数B	45.0%	○				
理科	60.8%	○				

【国語A：本校と全国の領域別平均正答率比較】

領域	全国平均正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
話すこと・聞くこと	53.0%	○				
書くこと	86.0%	○				
読むこと	55.2%	○				
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	77.2%					○

【考察】

- 「話すこと・聞くこと」では、話の内容に対する聞き方を工夫することに課題があります。今後は、話し手の意図などを正確に捉える活動を重視していきます。
- 「書くこと」では、説明の文章の書き方の工夫として適切なものを選択する問題の正答率が低かったです。今後は、具体的な事例を挙げて説明する文章を書く活動を重視していきます。
- 「読むこと」では、新聞のコラムを読んで表現の工夫を捉える問題の正答率が低かったです。今後は、新聞記事や教科書以外の文章を読んで内容を要約したり、自分の考えをまとめたりする活動に取り組みさせていきます。
- 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では、学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読んだり書いたりすることがよくできています。漢字コンクールへの取組や日頃の反復練習の成果と考えられますので、今後も一層練習に努めさせていきます。

【国語B：本校と全国の領域別平均正答率比較】

領域	全国平均正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
書くこと	61.1%	○				
読むこと	68.1%	○				

【考察】

- 「書くこと」では、楽器の分担図を基にして書く問題の正答率が低かったです。文章と図とを関係付けて自分の考えを書く活動に取り組みさせていきます。
- 「読むこと」では、声に出して読むときの工夫とその理由を書く問題の正答率が低かったです。登場人物の気持ちの変化などを想像しながら音読する活動に力を入れていきます。

【算数A：本校と全国の領域別平均正答率比較】

領域	全国平均正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
数と計算	80.1%	○				
量と測定	71.3%	○				
図形	64.5%	○				
数量関係	84.9%	○				

【考察】

- 全設問において無回答率が0%でした。授業の中で課題に対して自力解決する場を確保していることで、問題に取り組もうとする態度が育ってきています。
- 「量と測定」では、時刻を求めたり、分度器で角を求めたりすることを苦手とする児童が多くいました。授業以外でも、日頃から意識させ、用具を正しく使う活動を多く取り入れるなど継続した取組によって、定着を図るようにしていきます。
- 「図形」では、辺の長さや角を平面図や展開図から考えることを苦手とする傾向がみられました。作図などの操作活動を多く取り入れていきます。
- 今後は、1年生から5年生までの学習の中で、苦手とする領域を重点とし、積み重ね指導を授業や朝の「はげみタイム」、家庭学習などで取り上げて定着を図れるようにしていきます。

【算数B：本校と全国の領域別平均正答率比較】

領域	全国平均正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
数と計算	42.4%	○				
量と測定	41.7%	○				
図形	45.6%	○				
数量関係	43.0%	○				

【考察】

- 「数と計算」では、概数で考えたり、見積もりの結果から判断し説明したりすることに課題がありました。概数の考え方や答えの予想をおよその数で考えてから問題に取り組ませる活動を継続的に行い定着を図ります。
- 「図形」では、図形の性質や特徴についての知識はほぼ身につけています。しかし、それを用いて式や言葉で端的に説明することに課題がみられました。考えの根拠を明らかにし説明する学習をさらに重視して指導していきます。
- 「量と測定」では、買い物で条件に合う買い方や何割増、何割引、もとの値段を求めることに課題がみられました。日常生活と結びつけたりいろいろな場面設定の問題を解決したりすることで力をつけていきます。

【理科：本校と全国の領域別平均正答率比較】

内 容	全国平均正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
物 質	57.4%	○				
エネルギー	65.6%	○				
生 命	61.2%					○
地 球	57.8%	○				

【考 察】

- 「物質」では水の温まり方を予想し温度が高くなる順番を考えたり、グラフから読み取れることを考えたりする問題の正答率が低かったです。いずれも4年生の時に学習した内容で、定着が不十分だったと思われます。復習の時間を多くすることで、定着をより確かなものにしていきます。
- 「エネルギー」の領域では、電磁石や磁石の問題、乾電池のつなぎ方の問題の正答率が低かったです。「物質」や「エネルギー」など物理的で普段の生活にあまり関わらない問題は苦手のようにです。実験によって分かったことを、まとめる活動に重点を置いた指導をしていきます。
- 「生命」の領域はほとんどの問題で全国平均を大きく上回りました。自分たちの身近な存在だった、メダカやヘチマ等、常時観察してきたことがより理解に結びついたものと考えます。今後も、興味・関心を高めていきます。
- 「地球」の領域は、一日の中で月の形がどのように見えるかなど、天体に関しての正答率が低いので、朝のはげみタイムや放課後のぐんぐんタイムでは理科も行うなど、繰り返して学習する場を設定し、記述式の問題にも慣れさせます。

**平成27年度 全国学力・学習状況調査
質問紙調査結果及び考察について**

保護者の皆様へ

白河市立白河第五小学校長

「全国学力・学習状況調査」では、学習や生活の状況について質問紙による調査も実施しましたので、一部ですがその結果及び考察をお知らせいたします。

特に、児童の家庭学習の取組やゲームなどへのかかわりなど家庭生活に関する調査結果を公表し、学校と家庭・地域の協力体制を強化していきたいと思っております。

この結果を、ぜひご家庭でも子どもさんと一緒に話し合っ、て、家庭生活の見直しに役立ててくださるようお願いいたします。

1 普段（月～金）、授業以外にどのくらいの時間を学習していますか。

		3時間以上	2時間以上 3時間未満	1時間以上 2時間未満	30分以上 1時間未満	30分未満	全くしない
小	白五小	4. 2	8. 3	54. 2	33. 3	0. 0	0. 0
6	全 国	11. 1	14. 6	37. 0	25. 1	9. 1	3. 0

(単位 %)

【考 察】

- 授業以外の学習時間では、30分未満や全くしないという児童が0%であり、本校の6年生全員が家庭で学習をしていることは良い状況であると考えています。家庭学習の大切さについて児童が理解し、主体的に取り組むように、継続して「家庭学習ファイル」を活用しながら自分の学習の様子や生活を振り返る場を設定していきます。
- 漢字や計算コンクールの実施が近づくと、児童は目標をもち家庭でもよく学習に取り組むことができます。コンクール以外にも、様々な目標を設定し、「できた」という思いがもてるようにしていきます。また、中学校での自主的な学習にもつながるように中学校の学習の仕方を紹介して、よりよい学習習慣をつくるように指導していきます。

2 自分で計画を立てて勉強をしていますか。

		している	どちらかとい えばしている	あまり していない	全く していない
小	白五小	25. 0	45. 8	20. 8	8. 3
6	全 国	27. 4	35. 4	28. 1	9. 1

(単位 %)

【考 察】

- 全国と同様の傾向にあり、「している」又は「どちらかというとしている」児童は70.8%で、望ましい傾向にあります。
- 学級活動等の時間で計画的な学習の必要性やよさについてさらに児童に指導していきます。また、教育相談等で、児童の学力や生活実態に応じたよりよい計画になるように指導します。
- 発達段階に応じた学習計画の立て方について、個別懇談の場をとおして保護者の方々と連携していきます。

3 普段（月～金）、授業以外に1日当たりどのくらいの時間、読書をしますか。

		2時間以上	1時間以上 2時間未満	30分以上 1時間未満	10分以上 30分未満	10分未満	全くしない
小	白五小	0.0	8.3	12.5	33.3	33.3	12.5
6	全 国	7.5	10.1	20.1	26.5	15.8	19.9

(単位 %)

【考 察】

- 全国と比較すると本をあまり読まない傾向が見られます。本校児童について、正答率の関連性を見ると、「10分未満」や「全くしない」という児童の多くは、国語Bの正答率が全国平均正答率を下回っています。
- 朝の読書活動に取り組んでいますが、それ以外の読書の機会が一層増えるよう、学校図書館で本を借りるよう促します。
- 各家庭において、児童の身近に本を置くようにしたり親子一緒に読書する機会を設定したりするよう、ノーメディアデーの推進と関連付けながら、家庭での読書環境作りを呼びかけていきます。

4 普段（月～金）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか。

		4時間以上	3時間以上 4時間未満	2時間以上 3時間未満	1時間以上 2時間未満	1時間未満	全くしない
小	白五小	0.0	8.3	16.7	29.2	29.2	16.7
6	全 国	9.1	7.9	13.2	24.4	31.6	13.7

(単位 %)

【考 察】

- テレビゲームを「2時間以上」している児童が25%で、全国の割合より少なく、一定の歯止めがかかっているといえます。正答率との相関を分析すると、「2時間以上」テレビゲームをする児童のほとんどが、各教科で全国平均正答率を下回っています。
- ノーメディアデーの取組を継続し、学校全体でテレビゲームに偏った生活が改善

できるよう指導するとともに、テレビゲームについての約束を設定することについて、家庭で話し合いを持つように、呼びかけていきます。

5 朝食を毎日食べていますか。

		食べている	どちらかといえ ば食べている	あまり食べて いない	食べていない
小	白五小	95.8	4.2	0.0	0.0
6	全 国	87.6	8.0	3.4	0.0

(単位 %)

【考 察】

- 大変良い傾向です。本校で家庭と協力しながら重点的に指導している「早寝・早起き・朝ご飯・朝うんち」の継続した取組が、成果を上げていると言えます。
- 朝食についてのよい傾向は、家庭の取組のおかげです。「朝食を見直そう週間」の取組等をとおして、家庭と連携して児童への指導を継続し、「食べている」とする割合を維持向上させ、偏食せずバランスよく朝食を摂るように呼びかけていきます。

6 家の人（兄弟姉妹以外）と学校の出来事について話をしますか

		話している	どちらかといえ ば話している	あまり話して いない	話していない
小	白五小	54.2	20.8	25.0	0.0
6	全 国	53.2	26.3	15.9	4.5

(単位 %)

【考 察】

- 正答率との相関では、「している」とする児童の多くが、全体的に国語・算数・理科で全国平均正答率と同様か上回る傾向にあります。一方、「あまりしていない」児童は国語・算数のA・Bや理科のほとんどで全国平均正答率を下回っています。家庭における「豊かな対話」が学力面でもカギとなっていますので、学校の出来事について、少しでも親子の会話の時間を生み出すように、児童に働きかけていきます。
- 子ども達が学校のことを進んで話すためにも、学年便り、保健だより、学校だより等を、今後も発行していきます。また、親子の会話の時間を増やすことを目的の一つとし、ノーメディアデーの取り組みを、今後も家庭と連携して推進していきます。

7 土曜日や日曜日に、どれくらいの時間、勉強しますか。

		4時間以上	3時間以上 4時間未満	2時間以上 3時間未満	1時間以上 2時間未満	1時間未満	全くしない
小	白五小	0.0	0.0	8.3	54.2	33.3	4.2
6	全国	6.7	5.2	12.6	32.2	33.0	10.2

(単位 %)

- 土曜日や日曜日に、「2時間以上学習する」児童は、全国と比較して少ないといえます。本校で「2時間以上学習している」児童は、全てまたはいずれかの教科において全国平均正答率を上回っています。学習時間が1時間未満の児童の多くが、全国平均の正答率に達しておらず、「できれば2時間以上、最低でも1時間の学習」の学習時間を確保することが課題であると考えます。
- 土・日はさまざまな活動に参加し有意義な時間を過ごしている児童が多くいます。土・日に学習時間を生み出す工夫が必要と言えますので、「家庭学習ファイル」による評価を学校と家庭で共有し、連携して取り組んでいきます。

8 普段（月～金）、1日当たりどれくらいの時間、テレビを見ますか。

		4時間以上	3時間以上 4時間未満	2時間以上 3時間未満	1時間以上 2時間未満	1時間未満	全くしない
小	白五小	16.7	4.2	16.7	50.0	12.5	0.0
6	全国	19.2	16.9	23.1	25.3	13.5	1.9

(単位 %)

- 全国と比較してテレビを見る時間はあまり多くなく、ご家庭で実践していただいているノーメディアデーの取組等の成果と考えられます。一方、2時間より多い児童もかなり見られることは課題です。正答率との関連からみると、「2時間より多く」テレビを見る児童のほとんどが、国語・算数のA・B、理科のほとんどで全国平均正答率を下回っています。
- ノーメディアデーの取組を継続し、テレビとの関わり方について、家庭と協力しながら、指導していきます。

9 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか。

		あてはまる	どちらかという と当てはまる	どちらかという と当てはまらない	当てはまらない
小	白五小	8.3	29.2	37.5	25.0
6	全国	25.7	38.2	25.5	10.6

(単位 %)

- 本調査が行われた後の6月には、市内の歴史や文化にふれる学習を行い、徐々に地域や社会に目を向けられるようになってきました。今後も社会科や総合的な学習の時間などで、地域や社会に目を向けることができるように、保護者・地域の方々とより一層連携しながら地域の文化財、自然などに関わる機会を充実させ、地域のよさがわかる児童の育成を目指します。
- 新聞を読むことやニュースを見聞きすることにより、社会へ目を向けることができるように、ご家庭と協力して取り組んでいきます。

10 人の役に立つ人間になりたいと思いますか。

		あてはまる	どちらかという とあてはまる	どちらかという と当てはまらな い	当てはまら ない
小	白五小	58.3	20.8	16.7	4.2
6	全 国	71.6	22.1	4.3	1.9

(単位 %)

- 本校の6年生は、縦割り班での活動を行い、仲が良く、思いやりがあり、下級生の世話をよくしているという素晴らしさがあります。一方で、まだ自分の将来や社会についてまでは目が向いていないことなどが、この項目での意欲が低いことに原因があると考えます。自分への自信や自己有用感が高まるように指導していきます。
- 学校での各種活動や家庭での手伝いなどの経験を重ねることなどで、役立つ喜びが味わえるようにご家庭と連携して、人の役に立つ人間になりたいという思いを育てていきます。